

## 生命科学専攻（博士後期課程）

### 1. 教育研究上の目的

生命科学専攻は、博士前期課程で修得した幅広い生命科学分野の専門知識及び研究手法に基づいて、論理的思考及び独自の視点から生命科学における研究課題を自ら設定した上で、最先端の専門知識及び研究方法を駆使してそれらを分子レベルで解明し、その研究成果を発表することで、生命科学の発展に大きく貢献することができる人材を養成する。

### 2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生命科学専攻（博士後期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「博士（理学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 生命科学分野の発展的な知識と研究手法を身につけ、査読付きの国際誌に発表可能な独自の研究成果をあげることができる。
2. 生命科学分野の自立した研究者として研究に従事しうる知識と能力を有している。
3. 研究者もしくは高度専門職業人として自立して活動するために必要とされる、生命科学分野の卓越した知識と技能を修得した上で、自らの論理的思考・演繹力や価値の創造力をもって、それらを総合的に活用することができる。

（思考・判断・表現）

4. グローバルな情報収集と発信能力に欠かせない十分な英語向上能力と活用能力を有し、国際的な視野に立って思考し、研究した成果を国内外に発信することができる。
5. 周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、卓越した「考動力」と「指導力」を発揮して社会に貢献することができる。

（関心・意欲・態度）

6. 自らの学びに責任を持ち、高い職業的倫理観のもと、優れた問題発見力と解決力をもって、未解決の課題を自ら提起し、その解決に向けて取り組むことができる。

### 3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生命科学専攻（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 生命科学研究における外国語でのコミュニケーション能力や、最先端の研究成果を分析できる能力を修得するため、「グローバル生命科学」を必修科目として配置する。(知識・技能)
2. 生命科学に関する最新情報を収集・理解し、それを正しく評価した上で、研究テーマに応用できる能力を修得するため、「生命科学特別演習」を必修科目として配置する。(思考・判断・表現)
3. 生命科学に関する最先端の研究手法を修得した上で、論理的思考に基づき、独自の視点から研究課題を設定し、研究を遂行できる能力を修得するため、「生命科学特別研究」を必修科目として配置する。(知識・技能/思考・判断・表現/関心・意欲・態度)
4. 学部・博士前期課程での教育課程に基づき、生命科学分野の最先端の知識を体系的に修得した上で、様々な実験手法を駆使して、独自の視点から研究を進める。(知識・技能/思考・判断・表現/関心・意欲・態度)
5. 先端的知識の修得と研究者としての能力を養うために、各研究室での個別的な研究へのアドバイスや議論を行う。(知識・技能/思考・判断・表現/関心・意欲・態度)

#### (教育方法)

1. 指導教員の指導の下、実験科目である「生命科学特別研究」における先端的な研究の遂行により、卓越した知識・技能を修得させることを目指す。
2. 演習科目である「生命科学特別演習」において指導教員の下でゼミナールを開講することにより、そして専攻としての講義科目である「グローバル生命科学」を通して、最先端の知識と技術を修得できるようにする。
3. 設置している必修3科目によって体系的に、学術論文や学会発表など、研究成果の公表に関する指導を行う。

#### (教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、必修科目で課された発表やレポート、査読付きの国際誌に発表した研究成果の内容並びにその公表状況、そして学位論文の審査により把握する。なお、論文審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 考察力・論理性、及び「考動力」に集約される資質・能力の評価に関しては、必修科目で課された課題への対応や、発表した学術論文や博士論文の内容、そして研究発表や論文公聴会を通じて行う。
3. 関心・意欲・態度の修得に関しては、必修科目で課された課題への対応や、学会並びに学術論文の発表状況、そして口頭試問等によって把握する。

#### 4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

生命科学専攻 (博士後期課程) では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた

学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 生命科学分野において、博士前期課程で修得した知識・技能に基づき、研究成果を査読付きの国際誌に論文として発表することができる。
2. 博士前期課程で専攻した専門分野を中心として、より専門的で高度な知識・技能を修得している。

(思考・判断・表現)

3. 博士前期課程における学習を通じて、グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献できる。

(関心・意欲・態度)

4. 研究者としての適性を持ち、研究への強い意欲を持っている。
5. 特定の学問領域を主体的に学んでいく強い意欲を持っている。

以 上